

**「チームの学びを引き出すPBL
～チームが個人を伸ばすのか、個人がチームを伸ばすのか?!～」アンケート結果**

■第1部

1. 基調講演『プロジェクト科目 CNS 活用事例報告』は、参考になりましたか？

<教員>

- プロジェクト+IT 機能を組み合わせて参加人数の受け入れを大きくできているように思われる
- CNS にデータをアップして情報共有をする仕組みがとても有効に活用されていると理解できた
- 一つの場所に集まることなくコミュニケーションをとれることが理解できた
- 学部やキャンパスをまたぐメンバー間の共同作業にツールを有効活用できていることがわかった

<職員>

- 本学は別システムを導入しているが、CNS の活用事例を聞いて参考になった
- 限られた時間の中、チームで情報共有することが成果の質につながると感じた
- 参加している学生がフィールド調査やアンケートなどの演習実習的な活動とあわせて、それを深めるための文献購読にも批判的な視点をもって取り組んでいる点にとっても感心した
- 学生同士を結びつける何かがやはり必要なのだと感じた

<学生>

- そのようなものがあると知らなかった
- 情報共有や実際に動くことの大切さを知った
- さまざまな事例を学生主体で発表するスタイルが良かった

<企業関係者>

- 「あればいいな」が現実になって実用されているということが刺激になる
- このフォーラムの主旨とは少し違う印象を受けた。CNS の販売促進会のようなだった
- 情報の共有と効率化の為に CNS を活用しているのはおもしろかった

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- チームビルディングに CNS がどう有効だったのかを、突っ込んで紹介してもらえたらよかった
- プレゼン方法について、メンバー間で話し合ったのか大学の教員の参画などの説明が不足。参加者一人一人がどのように成長したのかの説明がされていない。PBL は発表者だけでなく、グループ全員の参画度と具体的成長が問われるが、この点の成果が可視化されていない。大学教員の参画が知りたかった。
- チームビルディングをかなり意識した専修大学の事例と対照的に「チーム」が見えにくい気がした。「情報共有」というだけなら単なるグループであり、コミュニティに過ぎないようにも感じる
- CNS の利用によって能率よく活動できるとわかった。視察や訪問など、時間の調整が大変だろう

<職員>

- CNS のメリットが見え辛かった。指導する立場の先生の意見も聞けると効果がよくわかったと思う
- 事例や CNS の意義はよくわかった。CNS の導入や開発のきっかけなども知りたいと思った
- 本学の場合、CNS の活用はなかなか浸透しておらず課題ばかりだが（課外という面もあるが）同志社大学の事例を伺って、教員の存在は活用にあたり必要なだろうと感じた。学生の自主性をどのように促しているのか気になる
- SNS などのコミュニティツールが導入後になかなか実質的に機能しないという声を聞くが、今回の発表は所属キャンパスの違いや忙しい今の大学生の生活スタイルの困難さを上手く克服している点が素晴らしいと思った
- SNS 環境でのコミュニケーションに慣れた学生たちにとっては最適のシステムであると思った。ネット上でのコミュニティが形成され活発な議論が生まれることは良いことであるが実際に顔をつき合わせてのコミュニケーションの重要性も忘れず学んでいただきたい

<学生>

- CNS（株式会社 SIGEL）の宣伝。本フォーラムの趣旨から少し外れているというような印象を受けた

<企業関係者>

- 情報共有や意見交換をするのに、CNS というというツールをうまく活用した学生は立派だと思うし、それを後押しするためのツールであったと思う。容量（データバンク）などの制約はあるのでしょうか？共有フォルダ内の整理が必要になるでしょう
- CNS の定義・目標・目的を明確に示してほしかった。その上でその実用効果がわかると尚良し

■第2部

1. 学生による取組発表は、参考になりましたか？

<教員>

- それぞれタイプの違う取組み、大学の発見が取揃えられていたことで PBL の多様性がよくわかった
- バナナプロジェクトは海外の自立支援にも大きな関わりを持っており素晴らしいと思った。専修大学のプロジェクトは学生主体で手作りで行っており、思いが自分たちの言葉でよく語られていて教員の関わり方、支援の仕方について参考になった
- 学生それぞれが持つ潜在能力とそれを引き出す教員の姿がよくわかった。また、私の大学に欠けているものが少し見えた

<職員>

- 様々な学科、専門の学生達が PBL の中で課題に取り組みされていて、素晴らしいと思った（多摩美術大学）。企業との交流の中で学生達が成長する姿がよくわかった（東京電機大学）。現場を持ち、提案していく中で学生達が生き生きと成長していることがわかった（同志社大学）
- 学生自身が興味関心をもって取り組める魅力的な内容で、いずれも社会からの「反応」を適宜受け取りながら進めている点がよいと思った。社会と関わることで責任に対する意識が次第に高まっていくことも報告を通じてよくわかった

- 学生の主体性に感動した。学生さんの「責任」という言葉が印象的であった
- 複数大学の事例により、単一学部と複数学部、テーマを提案するかチームに参加するかで違いがよくわかった。プロジェクト活動事例報告の中から学生が何を感じ、どうなったか垣間見えるところ。特に苦勞した話はよく表れている

<学生>

- 「PBL」という学習方法は、具体例があると形が見えてわかりやすい
- 自分とはまったく違う形でプロジェクトを行なっていたので興味をもった
- 初めて他の学校のプロジェクト活動をきいて刺激をもらった

<企業関係者>

- 学生のリアルな報告を聞ける貴重な機会であった
- 何を思っているのか、どうサポートしていけば良いかヒントを得た
- それぞれの発表の中でテーマやアプローチは異なっているが、どんな経験、機会によって大学生は何を感じ学びとるのか具体的にわかった

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- 学生の社会認識を突き動かす課題を提示できればより望ましいと考えている
- 実際の作品にまで作り上げていくプロセス。責任感。興味深い。目の前に「社会」があるという意識を評価したい。学生たちの発表も自信を持って堂々としていて素晴らしかった

<職員>

- PBLの多様性をうまく活かして学生の学びの場を設けているのが良かった
- 複数大学の事例を聞くことができたことが貴重だった。PBLが学生の潜在能力を引き出し、自ら考え主体的に行動する力を生み出す学びの拠点であることを実感できた
- 時間の制約もあるが、プロジェクトの背景にあるカリキュラムの構造や教員・指導者の関わり方、関係性を知ることができるとよりPBLを導入しやすいのではないかと感じた

<学生>

- 同志社大学プロジェクト科目の特殊さを改めて実感した。学部横断型プロジェクトは良いと思った
- どの大学もパワーポイントを改善すべき！事実裏付けされたものや数字が不足している
- 早いうちから企業と直にやりとりできることが、非常に良い。受身の状況が続いたから、質疑応答の場面があったほうが良いと感じた

<企業関係者>

- 多摩美術大学=完成されてとても意義深いPBL。正直、学生の方々の「デザインする力」に驚いた。社会でこれから求められることは、感性に基づいたデザイン力。素晴らしい！今度、近所なので見学させてほしい。今日一番感動した。Fisslerのプロジェクトもいい！

専修大学＝自分たちで関心のあるテーマだからこそ意欲と行動が持続する。これも素晴らしい取り組み。「自分ごととして」は社会で大切なマインド。とにかくフィールドワークに足を使うこと大切にしてほしい

東京電機大学＝企業の方々とリアルな社会を感じる貴重な体験、学びをしている。社会の箱庭を大学で体験していてたくさんの学びがあって素晴らしい

同志社大学＝19人という大所帯でプロジェクトを進めるのは大変でしょうが、それが社会に出てからの現実でもあるし大きな達成感をもたらすものでもある。あと3ヶ月がんばってほしい

- 学生の立場も必要だが教員側、企業側の立場からの意見が聞きたい

<その他>

- 専修大学の発表が秀一であった。研究という営為に必要な Epistemology（認識論）、Methodology（教育方法論）、Ontology（存在論）があったからだ

■第3部

1. パネルディスカッション「チームが個人を伸ばすのか、個人がチームを伸ばすのか?!」は、参考になりましたか？

<教員>

- 司会進行が素晴らしかった。このパネルディスカッション自体がPBLであった。本音を聞かせてもらえたのは、今後に参加になった。学生の意見がすばらしかった
- パネルディスカッションがパネラーの学生のPBLにおける振り返りのプロセスを経験しているように進行がなされていた。その上でPBLが教育的な学習経験を生み出す条件を考察するディスカッションであったと思う
- 学生たちの実感に裏づけられた報告や議論は参考になった。PBLの経験が彼ら彼女らにやはり自信をつけさせている様子が伝わってきた
- チームビルディングについての学生の考え方が分かった。各チームはPBLをよく理解しているが、プレゼンではそれが上手にアピールされていないことがわかった

<職員>

- 「周りが気づかせてくれる自分の役割」という言葉、「仲間であり敵」「敵であり仲間」という環境の重要性
- 時に難しい命題を投げかけられる中で、学生達が自分自身の言葉で説明し伝えようとする姿勢が強く感じられ、普段PBLの活動を通じて人との関わりを日常的に経験しているからこそその力を感じた
- 学生の率直な感想を知ることができた。学生の本音が聞けた事は良かった
- 学生のみのパネルディスカッションであり、学生視点の生の声が聞けた。また、各大学により特徴や考えがありおもしろかった。プロジェクト科目に対する学生さんの熱い気持ちが伝わった

<学生>

- 学生の本音を聞くことができてよかった。実際、取り組んでいる人達の生の声を聞くことができた。心をうつ意見がたくさんでってきた

- 自分の考えるチームと、自分達の行ってきた過程とは違うことを聞ける機会でおもしろかった
- 自分はリーダーをやっているチームを一つにまとめる工夫等、心得を知ることが出来た
- 3年間受講していても気づいてなかったことにも気付けた

<企業関係者>

- 学生が今考えている事や感じている事（本音）がよくわかった
- 社会の縮図を見た気がした。自分自身の反省点が多々あり良かった
- 想定以上に「一人」と「チーム」の違い、価値を語れるのだなと気づきがあった。やはり目的やビジョンが同じであることは大切である。専修大学のやり方は大学本来の姿だと思う。やりたい志のある人間があつまってそこに教師を呼んでくる
- 学生のリアルな想いが聞けたため、実際の主役である学生にとってどのような支援が効果的なのかを考えることができた

2. 内容等についての、ご意見やご感想

<教員>

- テーマを絞り込むのも必要だが、一般的に考え方を聴くことも必要と思われる。フロアーからのコメントや意見も取り入れて欲しい
- 学生の目線からの素直な意見が新鮮でよかった。とはいえ、運営者側の意見や手法などはもっと知りたいところ。山田先生の進行の仕方は参考になった
- 今回は院生の参加もあって少し雰囲気は違っていた。基本的には学士課程での取組であるわけだが、大学院レベルでの取組や活動を紹介・検討する機会もあればよいと思う

<職員>

- 学生自身が自分たちの活動を客観的に振り返る意味でもよいパネルディスカッションだった。大人の教職員中心のパネルディスカッションの場合、それぞれの発信で終わってしまい、パネラー同士があまりインタラクティブにならないことが多いが、今回は自分の意思も述べつつ他の人の意見にも誠実に反応していることにとっても共感した
- すべての学生がPBLを受講してある種の達成感を感じてほしいと思った。なかなか手間もかかり大変なプロジェクトだが、できるだけ多くの学生に経験してほしいと思う

<学生>

- 話についていくだけで精一杯だったが、考えたことのない事についても話されていて刺激となった
- 同じ大学生という身分でありながら、まったく違う立場からの意見が聞けた。まさしく社会と向き合っていく過程で、とても勉強したのだろう。ぜひもっとお話を聞きたい

<企業関係者>

- 昨年も思ったが、このセッションはすばらしい。最初はどうかと心配したが、まったく異なる分野の大学が集まったのが良かった
- みんな考え方や意見がしっかりしていて頼もしく思えた

■その他、ご意見やご感想

<教員>

- フォーラムそのものも学生が中心・主役で素晴らしかったので、これに加えてプロデューサーとしての教員から“ワザ”や工夫、キモも多く聞けると最高だと思う。今後も参加させて頂きたい
- 大変参考になった。いい学生を育てていらっしゃる。今後も継続的に実施される事を期待している
- PBLは学外に関係者を持つことが多いので、そうした学外の関係者として大学のPBLの取組はどのように見えたり感じられたりしているのか、そのような意義を持つと感じられ、またメリットがあると思われているのかといったこともまた教育活動（とりわけPBL）の社会的意義を確認する上で重要なポイントかと思う。学外関係者の生の声を聴く機会を設けて頂くと有難く有意義かと思う

<職員>

- キャリア支援の観点からも日常の授業の中で「考える」「チームの中で役割を果たす」ことを主体的に身に付けることは有意義であると感じた。自大学の特色を生かしてPBL教育を推進することができればと思う
- 同志社大学がされているPBLは人間関係の構築から行うので、学生にとっては大変だったと思うが、数年後に振り返ってみると、必ず役に立つ。また人間性の向上につながると思った
- たくさんの資料をいただけてありがたかったが、各発表とそれに対応するハンドアウトがどれなのか（もしくは無いのか）の指示が都度都度になされると、もう少しスムーズに拝聴することが出来たように思う。学生さんたちが自ら発表し伝えること自体がPBLの重要なポイントであることも実感させていただきながら聞いていた。興味深い企画をありがとうございました
- 多摩美術大学の学生が「他学部の学生との共同作業を経て、自分の専門を意識して取り組めた」とおっしゃっていたが、単なる個人の作業ではなく、他者の視点や社会/他者とのつながりを感じながら活動されていた点で一種のチーム性があったのではと感じた
- 本学のPBLへの取組みが来年度は10テーマを目標に開講する。代表チームがこうしたイベントに参加できればと望むところです

<学生>

- 今回は運よくこの会の情報を知った。他大学に知れ渡るくらいにもっと広報を頑張りたい
- 他大学の方々との交流、意見交換をできる機会を得られたことに非常に感謝している

<企業関係者>

- 色々な環境・取り組みの大学が集まったので、違い・バラエティがあって有意義だった。チーム力は「総合力（和集合の大きさ）」と「まとまり（共通集合の存在）」の両立だと思う。そのためには個人の成長と違う価値観の許容性だと思い、実社会と近いと思う。よって、これら取り組みは実社会に出てからも役立つプロセスだと思った
- 特にパネルディスカッションでは多くの「キーワード」をいただけた

<その他>

- 「失敗」という言葉が一言も出なかったことに不思議さを感じる。プロジェクトが失敗してはいけないのか。成果をあげなければいけないのか？